

先月二十七日、札幌でプロ野球日本ハムの若きエース、ダルビッシュ投手が日本シリーズ初戦の勝利投手となった。小気味良く投げ込むその姿に魅了されたファンも多かったろう。

それに対する中日の川上投手も、初回こそ日本ハムの主砲セギノール選手に出合い頭のスリラーンを浴びたものの、二回以降を完ペきに抑えたタ

一つは、農地内でのカフェのオープンだ。主人

いわての

風

フさは見事で、その後の四連勝での日本一につながった。

シナリオのないドラマといわれるスポーツではこうして日々感動の世界が展開されるが、地道に生きる当地の皆さんにもさまざまなドラマが存在する。

たまたまこの日は、数カ月前から予定されていた企業サポートのため山形県米沢市に出向かなければならなかったが、私

思い立ったのが、自然の

関 洋一 一関市・企業世話人



真摯な努力が道開く

恵みを満喫しリラックスできるよう、農地内にカフェ空間をつくらうという構想だった。

同じような夢を持つ百人のうち実際のチャレンジャーは一割、十人程度で、最後まで全うするのはそのうちの一人程度だと言われる。今回はまさに百人に一人の夢の実現であり、その実行力には感服させられる。

それは、規制行政のなかで最も厳しい農地を活用した新たな事業構想であり、担当窓口でことごとく「前例がない」とい

二つ目は、勤めていた事業所の閉鎖を機に独立

せき・まゆみ 52年紫波町生まれ。東京理科大学。商社勤務、誘致企業取締役、県中小企業支援センター・プロジェクトマネジャーなどを経て現在は中小企業大学校・高知工科大学大学院講師、盛岡市創業支援マネジャーなど。

その難題から逃げず、真摯に立ち向かった姿勢が評価されての受賞である。努力する姿は、どこかで見ている人がいるという証左で、世の中決して捨てたものではないようだ。

同じドラマでも、スポーツや政局のように大きく取り上げられるケースもあるが、新聞の前のお

なとも含め市井の人や昔の企業のそれその身近なドラマにはほとんど日が当たらない。

しかし、当日関与した米沢市の企業でも自社の存在価値に気づききっかけになったように、人も組織も皆それぞれ生き抜いていく上でかけがえないドラマを必ず持っているものだ。

大事なことは、自らのドラマに思いをいたし、そのことに誇りを持って生きていくことだ。それが、人や組織としての原点確認になり、そのよりどころともなるはずだから。

人も組織も それぞれにドラマ